


真の企業競争力を実現する

「ハンコ不要論」 重要なのは作業かプロセスか？



プロセス全体の
デジタル化で「つなぐ」がカギ！

FRONT LINE



株式会社NTTデータ イントラマート
代表取締役社長 中山 義人

この数カ月間で働く環境は激変しました。
今日(2020年6月11日)は朝8時の地下鉄に乗りましたが、椅子に座って新聞を広げて読めました。株主総会でしたが、ライブ配信となり、無観客状態で行いました。オフィスでは2割位しか社員はおらず、スカスカです。

こんなことはまったくの予想外でした。
これから世の中は確実に変わると思います。元に戻ることはないでしょう。

お客様のITの使い方や優先度も変わってきます。
いち早くこの変化に気がついて対応できるものが生き残ることになるのではと思います。

今回の特集の対談では
「intra-martユーザーに聞く! テレワークを成功させるために必要な取り組みとは?~テレワーク需要で見たintra-martのワークフローの威力~」
と題し、実際のintra-martユーザー様の声を取り上げましたので、ぜひご覧ください。

今までと異なるNewNormalを、一緒に築いていきましょう。

IM Vol.52 IMPRESS CONTENTS

- 「ハンコ不要論」 重要なのは作業かプロセスか?
intra-martユーザーに聞く!
テレワークを成功させるために必要な取り組みとは? 04
- 企業間取引の契約行為における脱・ハンコ
プロセス全体のデジタル化で「つなぐ」がカギ! 07
- 営業職のテレワークをサポート ~ SFAの活用法~ 09
- Signavio Live2020
~ 24 Hour Virtual Conference 開催報告~ 10
- intra-mart Accel Platform対応 注目のソリューション
JFEシステムズ「DataDelivery」 11



intra-martのウェビナー活動のご紹介

新型コロナウイルス(COVID-19)感染拡大防止の対策として、イントラマート社では4月からセミナーの会場開催を見送り、Webセミナー形式(ウェビナー)にて実施しております。全国津々浦々からたくさんのお申込み・ご参加をいただき、感謝申し上げます。今後も引き続きウェビナー開催を企画して参りますので、是非お気軽にご参加ください。ここでは、特に人気の2つのウェビナーをご紹介します。

intra-mart製品紹介& 課題解決セミナー 毎月開催

intra-martとはどういうコンセプトの製品か、どんな課題が解決できるのか?製品ラインナップを導入事例と共にやさしくご紹介するセミナーです。4月からの開催においては、COVID-19の感染拡大防止対策において多くの方が直面しているであろう、テレワーク環境下でのintra-martの活用方法について重点的にお話しさせていただきました。

こちらのセミナーはほぼ毎月開催しており、時節に応じて旬な話題を盛り込んでみなさまの業務課題解決に役立つ情報発信を心がけています。短時間でintra-martの基本をご理解いただけるセミナーですので、初めてintra-martを学ぶ方にもおすすめの内容です。



▼ 定期開催セミナーの詳細やお申込みは以下URLよりご確認ください。
<https://www.intra-mart.jp/event-seminar/teiki/>

One to Oneセミナー(個別開催セミナー)もご用意しております

- ウェビナー 経理業務の働き方改革セミナー**
intra-martのソリューションと導入事例を合わせてご紹介させていただきます。今後を見据えて、経理業務システムのあり方を考えてみませんか。
対象 経理部、情報システム部、経営企画部の責任者様、ご担当者様
- ウェビナー DXを考える為のポイントと実現メソッドご紹介セミナー**
「DX」をどう捉えてどう推進していくべきか、DXを実現するためにはどうしたらいいかについて、導入メソッドや事例を交えながらご紹介いたします。
対象 DX化をご検討中のエンドユーザー企業様

上記以外にも様々な課題に対応したセミナーをご用意しております。以下URLにて一覧をご確認いただけます。
<https://www.intra-mart.jp/event-seminar/one-to-one/>

intra-mart アップデートミーティング 2020 Spring

4月、8月、12月に開催

intra-martは 年に3回(4月、8月、12月)製品の新規機能追加や修正などをリリースしています。直近では、intra-mart Accelシリーズ 2020 Springが4月1日にリリースされました。本リリースでは、「IM-BloomMaker」で「IM-Workflow処理モジュールの表示」ができるようになったことで、IM-BloomMakerで作成した画面をワークフローのコンテンツとして利用しやすくなりました。その他、他システム連携強化や主要機能の追加など、

intra-martの活用の幅を広げていただける様々な機能追加・改善を行っております。
2020 Springのリリースを受け、4月23日に弊社開発本部メンバーがリリース内容について詳しく解説するアップデートミーティングを開催しました。当日の講演内容を以下URLにて公開しております。

関連情報 IM-BloomMakerに関するe-learningが新登場しました。本誌の裏表紙にてご案内しておりますのでご覧ください!

<https://icotto.intra-mart.com/imart/knowledge/contents/wiki/UpdateMeeting/2020%20Spring>

※URLにアクセスするために、icottoサイトへのログインが必要です。アカウント登録は、ログイン画面下部の「ご登録はこちら」よりお手続きにお進みください。

在宅勤務中のイントラマート社内の交流の取り組み

4月の緊急事態宣言後、弊社も例外なく在宅勤務が推奨され、社員同士が顔を合わせる機会がほぼなくなってしまいました。こんなときこそ、社員間の交流や情報共有が重要!というわけで、intra-martのグループウェア機能を使っての情報共有や、勉強会などの取り組みが活発に行われました。いつも全社員が集合して行うキックオフミーティングも、今回はWeb配信に切り替わり、社長や各本部からのメッセージ動画は、IM-KnowledgeのWiki機能を活用して共有されました。



「ハンコ不要論」

重要なのは作業かプロセスか？

2カ月近くに及んだ新型コロナウイルスに伴う緊急事態宣言は、従来当たり前と捉えてきた私たちの企業活動や働き方に様々な課題を投げかけました。特に多くの従業員による一斉の在宅勤務を中心とするリモートワークやテレワークは、オフィスの必要性や従業員による業務の成果とその評価など、アフターコロナ/ウィズコロナといわれる今後の働き方に大きな変革を求めるきっかけになったことは間違いありません。中でも、その存在が非難の的となったのがハンコです。日本固有の文化として、契約書をはじめ、企業間の取引に欠かせない商習慣として根付いているハンコが、「命の危険を冒してまで会社に行かなくてはならない理由」として、メディアやSNSで話題を集めています。

ただ、ハンコがなくなれば入社しなくてよくなるという問題ではありません。この課題の解決策が、デジタルトランスフォーメーション(DX)とセットで考えられないか。イントラマート社はそう考えます。ハンコだけではなく、これからの働き方の新しい常識を支える仕組みと、それを実現する取り組みをご紹介します。



intra-martユーザーに聞く！ テレワークを成功させるために必要な取り組みとは？

～テレワーク需要で見たintra-martのワークフローの威力～

テレワークを実現するためのハードルの1つとしてよく取り上げられる紙文化。三菱ケミカルシステム株式会社は、今回のコロナ禍以前から業務改革の一環としてペーパーレス化に真摯に取り組み、intra-martのワークフローを導入して社内における各種申請業務のシステム化を推進してきました。4月からの緊急事態宣言下において、ペーパーレス化に成功した三菱ケミカルシステム様がどのようにテレワークを実現したのか、同社デジタルソリューション事業部ビジネスソリューション部の小島賢士様に当社の中山義人がお話を伺いました。(文中敬称略)

**ペーパーレス化で
紙の申請業務は全てシステム化**

中山：いつもintra-martをご利用いただき、誠にありがとうございます。三菱ケ

ミカルシステム様ではペーパーレス活動を推進されているとお聞きしております。この取り組みはテレワークを実施する上で避けられない重要な取り組みと考えます。どのような体制でどのように社内制度を変革し、具体的にどういったペーパーレス活動を実施されているのでしょうか。

小島：弊社のペーパーレス活動は、社内において電子化できていない「紙を主体とした申請業務」を、全てシステムに切り替えることを目標にスタートしました。

ワークフロー化対象となる業務は多数存在しておりましたが、1つひとつを個別アプリケーションとして実装していたら、費用も時間も膨大にかかってしまいます。システムの機能はできるだけ汎用的なものだけを用意し、それに対していかに無理なく業務を当てはめていく

か、という点が大きな課題となりました。そこで、業務の所管となる各部署から推進者を選出してもらい、さらに社内規則の見直しも視野にいれて総務担当をワーキンググループに迎え、ペーパーレスを実現するためのディスカッションを繰り返すことで、社内ワークフローシステムの要件をまとめることができました(図1)。

**ペーパーレス化実現のポイントは
システム利用者の理解と協力**

中山：なるほど、業務にシステムを合わせるのではなく、システムに業務を合わせる工夫によって、システム対応を必要最小限に留めることができたのですね。intra-martのワークフローを活用してペーパーレス化を実現されていますが、実現のために不可欠・重要なポイントとは何でしょうか。

小島：システム化を実現するには、機能に汎用性を持たせながら、広い範囲の業務を対象とすることが不可欠になるのではないのでしょうか。システムに汎用性を持たせることは、新規業務が発生した際も迅速に対応できるメリットがあります。汎用的なシステムを作り上げるための

ポイントとして、業務担当者に対して「紙をなくすことが一番の目的」であることを理解してもらい、紙で行っていたこと以上の機能をシステムに求めないようにお願いしていました。「たしかに申請書を起票すると承認者が自動的にセットされると便利だと思いますが、今も申請用紙の承認者欄には自身で上司の氏名を記入しているのですから、まずは必要最低限の機能でペーパーレス化を実現しませんか?」といったような会話を常にしていた記憶があります。

業務担当者には、システム要件をまとめるワーキンググループから参加してもらい、早期からシステム化の目的を理解してもらうことで、活動をスムーズに進めることができたと感じています。

汎用的なシステムで業務を電子化するためには、システム利用者の理解と協力を得ることが最も重要なポイントだと思います。

**テレワーク下での
intra-mart活用シーン**

中山：コロナ禍以前からペーパーレス化を推進されていると思いますが、4月からの緊急事態宣言下において、テレワークの実施状況はいかがでしょう。intra-martはどのような場面、業務で活用されていますか。

小島：新型コロナウイルスの影響により緊急事態宣言が発令された際、弊社の従業員はテレワークで業務を行うように指示が出されました。従来であればテ

三菱ケミカルシステム株式会社
デジタルソリューション事業部
ビジネスソリューション部

小島 賢士 様



NTTデータ イントラマート
代表取締役社長

中山 義人



レワークで業務がしなくても、用紙の印刷や印鑑による押印が必要な業務がある際は、入社しなければならないためテレワークを利用することができません。しかしintra-martで構築した社内ワークフローシステムをリリースしてからは、在宅でも業務が行えるようになっており、テレワークを利用する機会を増やすことができたことは、コロナ対策に大きく貢献しました。弊社の事例として、新型コロナの影響で在宅勤務が決定した際に、社内部署間の合意書、購買業務・販売業務に関連する承認といった3つの業務について急遽システム対応する必要がありましたが、1日程度で機動的に電子化できた実績があります。

intra-martで構築した社内ワークフローシステムは、決裁のために用紙を印刷したり、印鑑で押印したりする必要はありません。テレワーク環境やモバイル環境からシステムにアクセスし、申請や

承認の処理、申請書の閲覧や保管をすることができます。

在宅で勤務する従業員・上司・申請窓口担当者をintra-martが「つなぐ」ことで、入社することなく決裁を得ることを可能にし、多くの社員がテレワークを実現できています。

中山：将来を見据えた汎用的なシステム構築の取り組みが、今回のテレワーク需要でも迅速な効果を出しているのは素晴らしいことですね。intra-martが「つなぐ」ことでテレワークが実現されているとのこと、弊社の製品が少しでもお役に立てて大変光栄です。テレワークに適応するために必要な取り組みなどについても教えていただけますか。押印業務はどのように実現しておられますか。また、工夫している点など教えてください。

**ワークフローをスムーズに進める
数々のカスタマイズ**

小島：弊社の社内ワークフローシステムは、既存の業務を大きく変えずにシステムへ移行できるように工夫しております。特徴の1つとして「ExcelやWordで作成した申請書テンプレートはそのまま利用することができる」「押印済みの申請書イメージを作成することができる」といった点が挙げられます。

ExcelやWordで作成した申請書をシステムにアップロードすれば、PDFに変換された状態でワークフローが起票されます。PDF化することで、印刷した紙

図1 MCSY ペーパーレス活動の流れ

■ ペーパーレス化取り組み概要

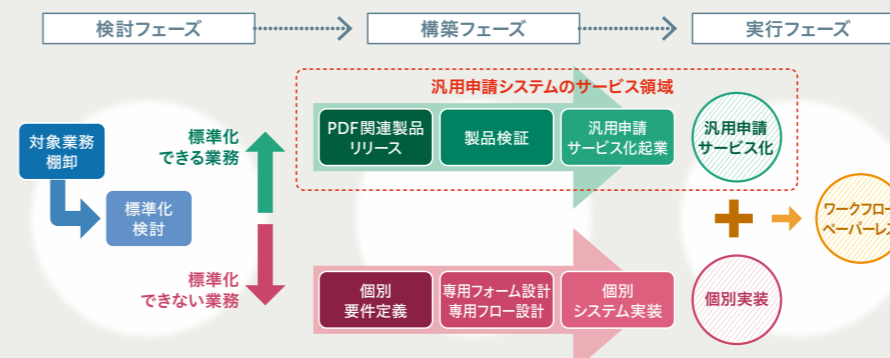
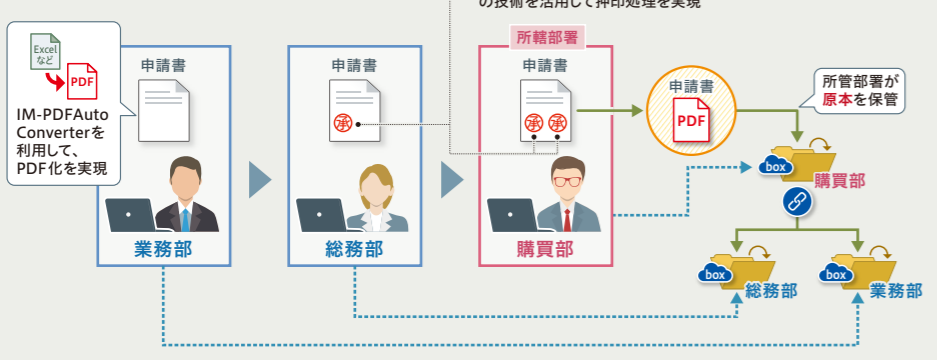


図2 BOX連携の業務イメージ



と同じようにワークフロー中に申請内容が書き換えられないようにしています。こちらは「IM-PDFAutoConverter」の技術を利用しています。

また、ワークフローの処理画面上においては、申請書PDFに対して押印イメージを付与できる機能を実装しています。これも紙と同じように自由な場所に押印することができるので、既存の申請書レイアウト(押印欄の位置)に制約されることなく押印処理をすることができます。こちらは株式会社ワイ・エス・エス様にご協力をいただき、intra-martソリューションである「PDF押印アイテム」の技術を活用させていただきました。

他にも、ワークフロー処理をした日時やアカウント等のシステム情報を承認履歴一覧としてPDF出力できる機能や、決裁された申請書PDFを外部のファイル共有サービス「BOX」に自動連携する機能などを実装し、申請業務がより便利になる工夫を取り入れています(図2)。

社外とのやりとりのワークフロー化は今後の課題

中山: 社内の業務においてワークフロー化を実現されておりますが、契約書など社外と行われる業務への展開は計画されておりますでしょうか。こちらを実現するために課題となっているところがあれば教えてください。

小島: 社外とのやりとりへのワークフロー化の展開は今後の課題です。システム化するためには、どのような会社がどのような業務でつながっているかを示しているフロー情報をセキュアに管理する

必要があります。弊社のシステムはまだ社内業務だけを対象にしており、社員であれば全てのフローが利用できてしまうので、フロー情報のアクセス権限管理が課題になってくると思います。

また承認証跡を残すという観点において、ゲストユーザーでワークフローを回すわけにはいきませんので、取引先会社の利用ユーザーのアカウント管理が必要となります。しかし全ての取引先会社のアカウントを網羅して管理し続けることはデータ量の観点で現実的ではな

いため、これらの対応方針を決めていく必要があると思います。

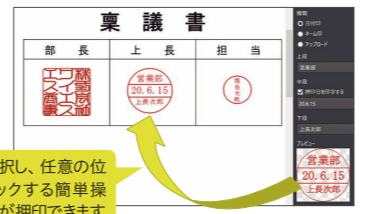
中山: intra-martに期待する点や要望等があれば教えてください。

小島: 弊社の社内ワークフローシステムは、intra-martの製品機能(バンダー製品含む)と簡易開発ツールの組み合わせによって、ほとんどの機能を簡単に実現することができたため、多くの開発コストを費やすことなく早期にシステム化を実現することができました。弊社のワークフロー電子化活動に対して効果的な機能を製品として提供していただいております。誠に感謝しております。

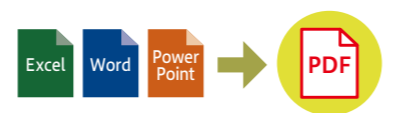
ワークフロー業務の電子化は、コロナ対策、テレワーク推進、ペーパーレス活動といった企業活動としてのテーマに貢献すると感じております。まだまだ根強く残る紙・ハンコ文化に悩んでいる企業は多いかと思いますが、intra-martソリューションによって日本企業におけるワークフロー業務の電子化をリードしていくことを期待しております。

IM-Workflowと連携可能なソリューションを豊富に用意

■ PDF押印アイテム (株式会社ワイ・エス・エス)
IM-FormaDesignerの画面アイテムとして押印機能をローコード開発で実現する製品です。日付印(三段)/名前印/画像取込印鑑を簡単な操作で作成し押印できます。IE/Edge/Chrome/Safariなど様々な環境で印鑑押印を実現し、スマートフォンからも活用できます。ワークフローの承認履歴一覧を出力/押印済のPDFにセキュリティを付与することも可能です。短期間で電子印鑑システムの構築を実現し、在宅勤務での押印の課題解決を支援します。



■ IM-PDFAutoConverter
サーバー上で、様々なフォーマットのファイルをPDFファイルに自動変換します。安定的にPDF変換できる多くの機能があります。WordやExcelなどOffice製品をはじめ、太郎やTIFFやJPEGなど画像ファイル形式にも対応しています。



「PDF押印アイテム」と連携すると、申請時にアップロードされたOfficeファイルを自動でPDF変換します

ご興味を持たれた方は、お気軽にお問い合わせください。
製品に関するお問い合わせ先 info@intra-mart.jp
製品デモンストレーションサイトでもIM-Workflowをお試しいただけます。
<https://www.intra-mart.jp/demosite/>
※個人情報の登録が必要です

企業間取引の契約行為における脱・ハンコ プロセス全体のデジタル化で「つなぐ」がカギ!

にわかに注目を集めるハンコ(※1)。そして、その要不要を問う論議が盛り上がっています。しかし、ひと言でハンコといっても、企業が業務に、またその企業活動に使用するハンコの種類は様々です。そのハンコ(押印業務)をなくす検討を進める上では、まず社内と社外での2つの利用シーンに分けて考えることが、結果的に業務の効率化を導く近道となります。ここでは、社外の取引先との契約行為におけるハンコに代わる電子サインと、プロセス全体のデジタル化による取り組みをデジタルビジネス推進室/Evangelistの久木田浩一が解説します。

社外との契約行為にハンコは不要? 電子サインのサービスが続々登場

企業活動の中でハンコが持つ役割は、社内では「承認」、そして社外との契約行為においては会社のトップが契約した証拠である「同意」となります。今回のコロナ禍をきっかけに現在進行形で論議的となっているハンコ不要論は、物理的なハンコそのものであって、「承認」や「同意」を得るプロセスは、いずれも決定すべき事項や企業間での取り組みを前進させるためには欠かせない商習慣であることに間違いありません。

中でも社内のハンコは、企業ごとに独自で定める運用ルールに基づき、ワークフローシステムで代替し、紙も含めたデジタル化によって業務の効率化を図ることが容易に可能です。実際、多くの企業で社内の承認・決裁業務にワークフローシステムの導入が進んでいます。ただ、同じ社内であっても、申請者と承認者の人数に限られた比較的単純な承認・決裁もあれば、多くの人が関わる複雑なものも存在し、それら全てをカバーできずにやむなく紙の運用が残っている企業が少なくありません。全ての承認・決裁をカバーするには、ワークフロー製品に網羅性や拡張性が求められます。この市場では、intra-martはおかげさまで12年連続No.1(※2)のリーディングカンパニーとして、多くのお客様の業務プロセスのデジタル化を実現しています。

一方で、社外の取引先との企業間における契約行為は、自社独自の運用ルールで決めるというわけにはいきません。相手となる取引先もさることながら、ハンコによる押印に代わる企業としての「同意」の意思表示に法的効力が担保されている必要があります。そこで現在、脱ハンコと同時に一段と注目を集めているのが、電子サイン・電子署名です。電子サイン・電子署名は、信頼された第三者が発行する電子証明書を利用して文書を暗号化し、そこに記された署名の同一性を認証する技術を用いることで、本人確認や偽造・改ざん防止が可能となります。もちろん、こうした技術に裏打ちされた高水準のセキュリティを担保するだけではなく、昨今の電子サイン・電子署名のサービスを提供するツールバンダー各社は、広範な関連の法的要件を満たしていることをうたっています。日本でも大手企業を中心に、数万社で利用されていると見られ



デジタルビジネス推進室/Evangelist 久木田 浩一

ています。昨年来、テレビCMでも頻繁に目にした人も多いのではないのでしょうか。

脱・ハンコの本質はハンコではない リモートワークを阻む本当の理由

電子サイン・電子署名の市場は着実に右肩上がりの成長を続け、今回のコロナ禍の影響による一斉のリモートワークを阻む日本特有のハンコ文化にいずれ取って代わるツールであることは間違いありません。

しかし、とイントラマート社は考えています。メディアやSNSを賑わせる「ハンコを押すためだけに会社」という、少し自虐的でそのキャッチーな言葉の裏側には、「ハンコを押す」という行為だけではなく、多くの紙に依存し、なおかつ前後の処理を含む一連の契約行為のために会社しなければならない、という本質が隠れているのではないのでしょうか。

前述の社内もそうですが、外部との契約行為にはハンコを押すという行為だけではなく、書類作成・起票準備から上長による承認、さらに法務での確認と承認、そして顧客や取引先との調印があり、またその結果を受け取る(図3)などといった流れがあります。この流れ(=プロセス)を考慮せず、単に紙の契約書にハンコを押すという部分的な行為だけが独り歩きし、木を見て森を見ない今の「ハンコ不要論」に発展しているざらいがあります。契約におけるハンコを押すという行為は、あくまでも在宅勤務を中心とするリモートワークの障壁となる象徴的な作業に過ぎず、実際は取引先との契約行為全般のプロセスのために会社しているケースが多いと考えられます。

RPAの落とし穴に学ぶ プロセス全体のデジタル化の重要性

プロセスには必ず始まりと終わりがあ

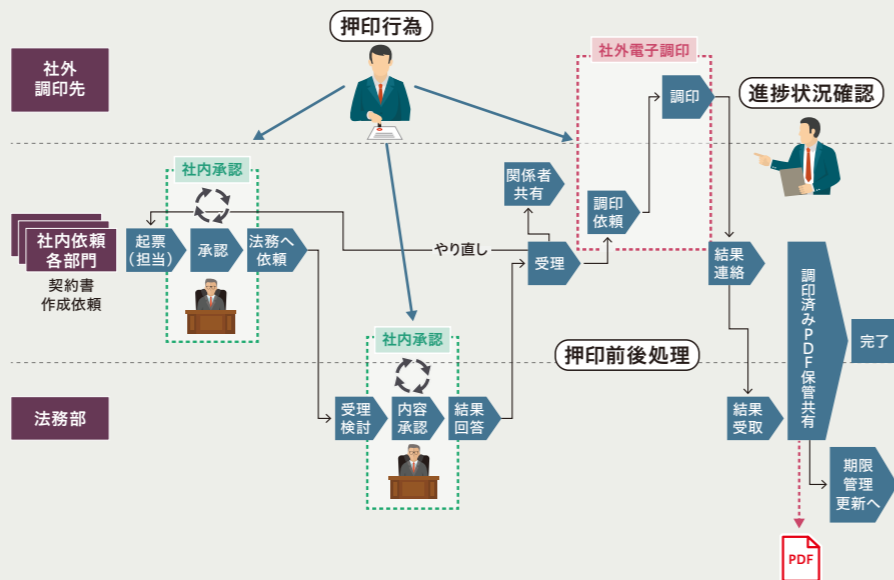
※1 本文中で使用している「ハンコ」は印章そのものを指し、押印した印影とは区別しています
※2 富士キメラ総研「ソフトウェアビジネス新市場2019年版」より

ります。企業間における契約行為も決して例外ではありません。そのプロセスをしっかりと定めて、さらにデジタル化することが、ハンコをなくして「命の危険を冒す出社」をせずに完全なリモートワークを実現するためには何よりも重要です。このプロセスのデジタル化は、イントラマート社が最も得意とする領域です。

ここ数年、多くの企業が導入を進めたRPAによる「作業」のオートメーションも、実はこの「ハンコ不要論」に似た落とし穴がありました。ロボットによる作業のオートメーションの前後にはほぼ人が介在し、うまく作動しなかったロボットの確認やプロセスの進捗の把握など、作業と作業をつなぎ合わせる業務全体のプロセスをデジタル化していないがゆえに、RPAが本来もたらす効果を最大限に発揮できなかったケースが数多くありました。イントラマート社では、RPAだけでは業務の効率化が十分に享受できなかったお客様にプロセス全体のデジタル化を提唱し、多くのベストプラクティスをユーザーと共に作り出してきました。

同様に脱・ハンコが叫ばれる今、イン

図3 社外との契約行為に伴う法務相談～調印～管理プロセスの例



トラマート社は電子サイン・電子署名のマーケットリーダーであるベンダー各社との連携を進めています。従来からデジタル化の対象でありながらも、法的効力の担保の不確かさや慣れ切った商習慣を理由に一歩踏み出せなかった契約行為のプロセスのデジタル化の実現が、目の前まで来ているのです。

繰り返しになりますが、法的効力も含め電子サインの実用性は、専門ベンダーによって確立されてきています。それらのサービスをintra-martによるデジタル化されたプロセスにつなぐことによって、社内処理や契約先を「つなぐ」ことができ、契約行為の始まりから終わりまでデジタルで一気通貫に完結できるのです。

電子サイン・電子署名の外部サービスとの連携を推進



デジタルビジネス推進室/BIORA推進グループ
七島 泰介

調査会社によると日本国内の電子契約サービスやリーガルテックといった市場は、ここ数年でも150%の成長率で加速度的に拡大しています。そのポテンシャルも高く、現在の10倍の規模と試算するベンダーもいます。実際、弊社がすでにソリューションパートナーとして連携しているサインベンダーでは、今年3月の無料試用の申し

込みが昨年比べて3倍に跳ね上がったそうです。従前からのDXに加えて今回のリモートワークを追い風に、電子サインに対する関心の高まりがうかがい知れます。

イントラマート社では、業務プロセスのデジタル化によるフルオートメーションの実現を目指して、IoTやAI、RPAといったデジタル技術との連携(intra-mart BIORA)をはじめ、BPMやワークフローと様々な外部サービスとの連携を推進しています。電子サイン・電子署名はその1つで、お客様のご要望により、この市場で知名度の高いマーケットリーダーとの連携を現在進めているところです。また、intra-martと電子サイン・電子署名の連携には、すでに活用しているお客様の事例もあります。

弊社が連携するサインベンダーは、いずれも日本の電子署名法に準拠し、なお

かつエンタープライズの領域でしっかりした実績を持つサービスを提供しています。その中で改めて再認識したのが冒頭の市場のポテンシャルです。大手企業を中心に間違いなく導入が進んでおり、皆さんが自社でも利用する日が近いのではないかと感じています。

その一方で、イントラマート社の強みであるプロセスで「つなぐ」という付加価値が必要不可欠であるとも実感しています。取引先との契約時のハンコによる押印という機能を最大限に発揮するためには、プロセスでつなぐという観点が重要なのです。

今後の取り組みとして、電子サイン・電子署名をつなぐことに加えて、汎用的な契約行為に必要な契約内容のチェックAIサービスなどの外部サービスとの連携を一段と推し進め、プロセスのフルデジタル化を実現したいと考えています。

今の時代を勝ち抜く、新しい営業スタイル

営業職のテレワークをサポート ～SFAの活用法～

intra-mart DPS for Sales

新型コロナウイルス感染症の拡大により、テレワークなどの働き方の変化が求められています。営業職もその1つですが、一方で情報共有の難しさがチーム力の低下を招くのではといった不安からテレワークの実施に踏み切れない企業も少なくありません。営業支援ツール(SFA)を用いれば営業チーム内の活動情報やスケジュール、案件進捗など、営業活動に関する情報を時間や場所にとらわれず共有できます。以下ではテレワークでもリアルタイムに情報共有でき、強いチーム力を維持するSFAの活用法を紹介します。

■ 営業職におけるテレワークの課題

外回りが多い営業職はテレワークと相性の良い職種といわれています。報告書や日報の作成もリモートで済ませてしまえば会社に向く必要がなくなり、顧客と接する時間を確保できます。しかし、報告や情報共有などをすべてリモートでやりとりする場合、チーム内でビジネスがどう動いているのかつかみづらくなります。営業活動を完全テレワークに切り替えるには、右図に示したように特に情報共有に関してクリアすべき2つの課題があります。

■ SFAの活用でテレワークの課題を一掃

テレワークでニーズの高まる営業支援システム(SFA)。中でもクラウド型を使えば、テレワークで避けられない情報共有の課題をまとめて解決することができます。弊社のDPS for Salesは日々の営業活動や名刺情報、報告書などのExcel帳票も簡単に一元管理できます。情報共有の課題をクリアすることにとどまらず、SFA本来の目的である営業の効率化や企業の利益を伸ばすことも実現可能です。

詳細は **intra-mart DPS** で検索!



情報共有における課題

<p>状況の把握が難しい</p> <p>商談状況</p>	<p>情報の備蓄ができない</p> <p>活動内容</p>	<p>名刺情報</p>	<p>ドキュメントの共有</p>
------------------------------	-------------------------------	-------------	------------------

営業それぞれの活動内容や商談の進捗情報などが今以上に把握しづらくなる

名刺情報やドキュメントの管理・共有が難しく、情報共有の機会が失われ、チーム力の低下を招く

SFAで課題を一掃

<p>現場の状況をリアルタイムに把握</p> <p>案件の進捗や活動内容などの情報を営業スタッフそれぞれがSFAに入力。マネジャーは部下の行動をリアルタイムに把握可能</p>	<p>情報が自然とたまる</p> <p>商談で使用した資料や名刺情報をSFAに登録しメンバー間で共有</p>
---	--

負担となる入力作業も営業スタッフは日報作成を行うのみ。SFAに登録された日報は顧客・案件情報へリアルタイムに反映

チーム内で共有しているExcelファイルの集計帳票をSFAに登録して、入力された情報をリアルタイム反映。Excelの商談実績やフォーキャスト管理をSFA上で再現

intra-martの導入をスピーディーに実現!

すぐにintra-martを使いたい…。Accel-Martは、そのご要望を叶えます!



Accel-Martの特長

豊富な機能

BPM/ワークフロー、グループウェア、スプレッドシートなど、intra-martの持つ豊富な機能をクラウド上に取りそろえています。

お手頃な価格体系

ユーザー課金ではなくプランごとの月額課金制度で提供しており、利用ユーザーが多くなるほどコストメリットが得られます。intra-martの製品ライセンスを別途購入する必要はありません! また最短2カ月から利用可能な開発・検証用のプランも用意しており、PoCなどに最適です。

★お申込みから最短5～10日を提供目安(申込内容次第)としており、短期間で環境を提供することが可能です。Accel-Martの詳細についてはHPをご確認ください。

<http://www.accel-mart.com/>

手軽なシステム運用管理機能

サーバーの起動や停止、オンラインバックアップなど、システムの運用監視を支援するツールを標準で用意しています。

クラウドメリット

AWS上にintra-martを構築するため、外出先からスマートフォン・タブレットなどによるワークフロー承認やスケジュール確認も可能です。またグループ会社や取引先との情報連携ポータルや、SaaS同士をAPIで連携させるiPaaSとしての使い方も人気です。

★2020年4月1日から、上述のDPS for SalesをAccel-MartでSaaS版提供も開始しております。詳細は下記URLをご確認ください。

<https://dps.intra-mart.jp/forsales/price/>

去る5月27日、独Signavio社が主催するウェビナー「Signavio Live2020」が開催され、同社とパートナー契約を締結するイントラマート社は今回初めてセッションに登場。ビジネスプロセスフォーメーションとプロセスマネジメントをテーマとした世界最大級のバーチャルイベントとうたわれる本ウェビナーでは、5月27日(水)日本時間9時から翌28日(木)明朝5時までの間、北米とEMEA(ヨーロッパ、中東およびアフリカ)、そしてAPAC(アジア太平洋)の各国から20を超えるセッションが途絶えることなく、数珠つなぎで行われました。

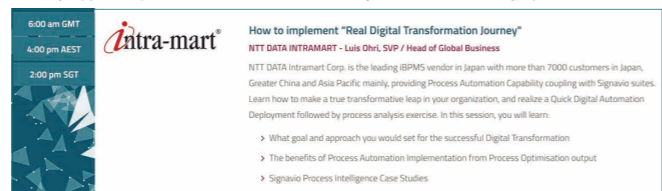
「How to implement “Real Digital Transformation Journey”」と題したイントラマート社のセッションでは、DX(デジタルトランスフォーメーション)の実現に必要な業務プロセスのデジタル化によるオートメーションの重要性を説くとともに、それらを実現するプラットフォーム(Digital Process Automation Platform)としてintra-mart(IM-BPM)を紹介しました。日本のみならず、オーストラリアや中国、タイなどでの幅広い事例の紹介に、オーディエンスからセッション中のチャットによる質問も多く、総勢200人に視聴いただきました。

今後もイントラマート社は、BPMを中心にグローバルでデジタルプロセスオートメーションの事業展開を推し進めます。

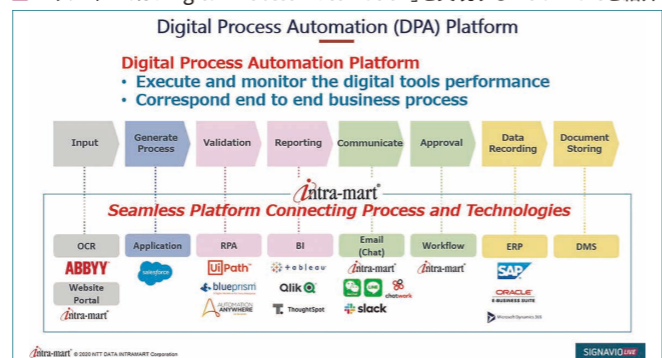
■ イントラマート社を含む20社のセッションがLiveで行われたSignavio Live2020



■ 日本時間15時のセッションにはAPACを中心に200人超が視聴した



■ セッションでは「Digital Process Automation」を実現するintra-martを紹介

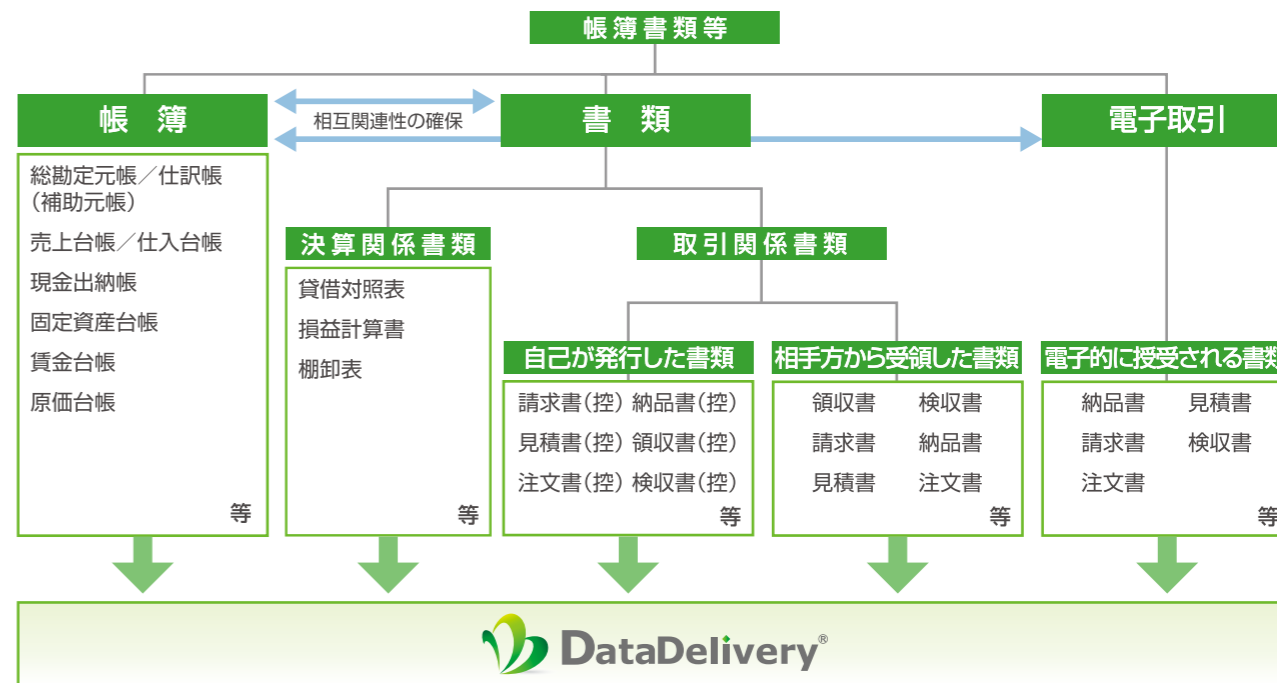


intra-martパートナーが、自社の強みを活かした業務ソリューションを多数構築しています。お客様のビジネスをサポートするソリューションが続々と登場しますので、引き続きご期待ください。

企業の電子帳簿保存法対応を強力に支援



電子帳簿保存法では、企業における重要なデータの電子化要件を定めており、企業で日々作成されるデータの多くは、法要件に適合した形での保管が必要です。JFEシステムズでは、20年以上、3,600社以上のお客様の電子保管に取り組んでおります。こうした豊富な導入実績を活かした製品「DataDelivery」やコンサルティングにより、お客様の電子保管への取り組みを支援します。



すべての国税関係帳簿書類を長期に渡りセキュアに保管

DataDeliveryの選ばれる理由

- 豊富な導入実績による適切なコンサルティング
- 大量データをコンパクトに保管 高速検索
- イントラマート製品とのシステム連携も容易

電子化の取り組みがもたらす6つのメリット



Web
セミナー
開催中

電子保管をご検討なら、まずは当社のセミナーへ

JFEシステムズ セミナー 検索



電子帳簿保存法対応の4つのメリットを詳細解説

電子帳簿保存.com



JFE
JFEシステムズ株式会社
〒105-0023 東京都港区芝浦1-2-3 シーバンス5館
TEL 03(5418)2377
E-mail datadelivery@jfe-systems.com
URL https://www.denshichoubohozon.com/



Letter from Global Team

イントラマート グローバル本部の活動紹介

イントラマート社には、シンガポール・タイ・中国などを拠点に周辺各国を含め、グローバル本部がintra-martの販売を展開しています。今回は、オーストラリアを拠点にビジネスアナリストとしてコンサルタント業務を担うSumit Kumarこと、Sumit Kumarからの手紙です。

ビジネスアナリストの
Sumit Kumar

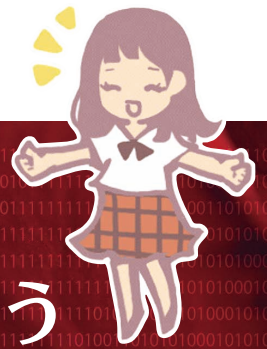


Hello, my name is Sumit Kumar living in Australia. I am a multi-dimensional Consultant with more than 13+ years of experience and a blend of business and technology skills along with a track record of leading efforts with global teams in delivering Business solutions.

I will introduce a particular customer case study in Australia, a world's leading insurance broker and risk adviser, to you this time. The public sector of this customer manages Worker Compensation on behalf of the government body. There were a lot of business challenges and improvement opportunities in the Worker Compensations Claim Management life cycle. intra-mart was utilized in designing and visualizing how the improvements can be realized in achieving process optimization, reducing cost and time, and achieving high efficiency.

Please feel free to contact me if you are interested in intra-mart in Australia region. See you!

intra-martの e-learning研修のご案内



IM-BloomMakerで画面作成を行う 「ローコード開発」コースが新登場!

このコースでは、一覧・登録画面の作成、IM-RepositoryやIM-LogicDesignerとの連携など、IM-BloomMakerを利用したローコード開発方法を詳しく学習します。プログラミングに関する知識が少ない方でも、簡単に画面を作成できるようになります! e-learning用のintra-mart環境に接続してハンズオン演習を行うので、PCとネットワーク環境があればご自宅からでも受講が可能です。

対象のコース: [L-01]ローコード開発コース

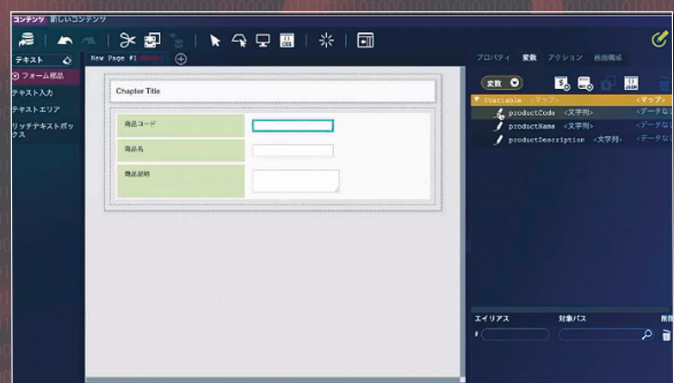
IM-BloomMakerとは?

intra-mart Accel Platform上でアプリケーション画面を簡単に作成できるローコード(Low-Code)開発ツールです。ビジュアル操作でプログラム開発作業ができます。

IM-BloomMakerの主な特長

- プログラミングに関する知識が少ない一般ユーザーでも、アプリケーション画面を簡単に作成可能です。
- アプリケーション画面の作成にあたり、操作はブラウザ内で完了します。
- アプリケーション画面への変更は即時反映されます。アプリケーションのデプロイ・再起動は不要です。

IM-BloomMakerの操作イメージ



その他にもたくさんのe-learningをご用意しております。
詳細は右記URLよりご確認ください。

<https://bit.ly/30xtJaE>